

<第142号>

令和8年2月2日発行

少年センターだより

可児市役所 地域協働課内 可児市少年センター ☎ 62-1111(内線 2116)

『青パト(青色防犯パトロール)』は、 市民の皆さんに支えられています



『青パト』に出発される市民補導員の皆さん

11月下旬の午後3時前、この日の『青パト』を担当していただく市民の皆さん(上の写真)が可児市役所に集合されました。これから約2時間、下校する小中高生を見守りながら、市内を巡回していただきます。それでは皆さん、よろしくお願ひします！

今年度、可児市は90名の市民の皆さんに青色パトの活動をお願いしています。この90名は、可児市青少年育成推進委員24名と可児市各地区青少年育成推進委員会補導部員66名の皆さんで構成されています。

皆さんによる年間の活動日数は、約100日。これに少年センター事務局等によるものを加えると、年間200日以上の活動をしています。パトロールの時間帯は、朝・昼・薄暮・夜間と日によって異なります。

今日も『青パト』は、安全で安心に暮らせる可児市をつくるために、市民の皆さんに支えられて、市内を走ります。



ご報告 11月は『秋のこどもまんなか月間』。これにちなんで可児市では…。

可児工高・帝京可児高中・可児高の生徒さんも参加 市内 11箇所で街頭啓発活動を実施



たすき掛けは、参加された皆さん(手前の二人と奥は高校生)

高校生や中学生と一緒に活動をされた方々から、「元気をもらった」「清々しい気持ちになった」等の声が寄せられました。ご協力くださった皆さん、そして生徒さん・引率の先生方、ありがとうございました。

子どもたちも教えて欲しいと思っている、SNS の危険性

11月15日(土)、可児市文化創造センター(アーラ)にて『可児市青少年育成シンポジウム』(主催: 可児市青少年育成市民会議・共催: 可児市PTA連合会)が開催されました。講演には竹内義博氏をお迎えし、「スマホ・ネットの現状と対策~子どもたちをネットの被害者にも加害者にもさせないために」と題してお話をいただきました。

その中でポイントの一つとされたのが、大人が子ども目線に立つことの大切さでした。「『スマホもSNSもよく分からない』と親が子どもまかせにせず、逆に『そんなことも分からないのか』と、子どもをバカにするようなこともしない。親が子どもと同じ目線でスマホやネットについて一緒に考えましょう」と竹内さんは言われます。

ネットで知り合った人物から被害を受ける子どもたちの事例が後を絶ちません。これにも、「ネットで知り合った人物に会う危険性を、子どもたちが知らないから」で、「大人にとっては当たり前のことでも、子どもには当てはまらないのです。子どもたちは、親や大人が自分たちと同じ目線に立って、何が、なぜ危険なのかを教えて欲しいと思っているのです」と。

子どもたちもスマホやネットについて、その自らの使い方も含めて今まで良いはずがないと、うすうす感づいているのです。話し合う絶好のタイミングかもしれません。

11月2日(日)を中心に市内11箇所において、『子ども・若者を犯罪や有害環境から守るための街頭啓発活動』(主催: 可児市青少年育成市民会議)が実施されました。

2日は、市や各地区青少年育成推進員さん等の大人に混じって、可児工業高校・帝京可児高校中学校・可児高校のMS(MSJ)リーダーズの生徒さん、36名の姿もありました。

『わが家の宝物』作文・標語優秀賞作品、 『家庭の日』啓発図画・ポスター県入選作品決まる

今年度の『わが家の宝物』作文・標語(主催：可児市青少年育成市民会議)優秀賞、『家庭の日』啓発図画・ポスター(主催：岐阜県)県入選作品が次のとおり決まりました。

受賞者は、『青少年育成シンポジウム』において可児市青少年育成市民会議会長・富田可児市長から表彰されました。

『わが家の宝物』作文優秀賞

小林はなさん(土田小6年)	『まほうの言葉』
西尾章さん(帝京可児小5年)	『おじいちゃんの残した宝物』
バシャー・ハイリアさん(広見小5年)	『わたしのかぞく』
堺穂華さん(帝京可児中1年)	『買ってくれた、学習の本』
向川苺花さん(帝京可児中1年)	『私の歴史』
萱野佑汰さん(帝京可児中1年)	『マグネット』

『わが家の宝物』標語優秀賞

上山虹桃さん(土田小4年)	ただいまへの一言で 家族にえがおの 花がさく
神谷理央さん(東明小5年)	家族の声、ぼくの背中に勇気のつばさ
近藤朝都さん(桜ヶ丘小6年)	ありがとう 家族がつながる 合言葉
川副陽乃さん(西可児中2年)	剣道で負けてなみだを流した日 「お前は勝てる」 不器用な父の 優しい言の葉
磯部友里さん(西可児中2年)	本当は素直に言いたい 「ありがとう」 照れくさいけど 本音だよ
松浦結高さん(広陵中1年)	三兄弟 柱にきざんだ 成長の証

『家庭の日』啓発図画・ポスター県入選

矢野紘大さん(今渡北小1年)	『かていのひ』
渡邊凪紗さん(旭小3年)	『かぞくとの思い出』

7月・11月、各店舗に立入調査を実施

環境浄化活動の一環である立入調査は、青少年の育成にとって望ましい社会環境を整備するために行うもので、可児市少年センターの重点施策の一つです。具体的には、書店・コンビニエンスストア・レンタル店・インターネットカフェ・カラオケ店・携帯電話販売店等に調査員が立ち入り、青少年にとって有害となる出版物等の販売や環境の有無を調べます。その上で改めて店舗に対し、県青少年健全育成条例の遵守をお願いします。

今回、どのお店も条例を守られていることが確認できました。ご協力に感謝いたします。

～『青パト』から見えたこと～

青年に感謝

夏のある午後。この日も文字どおりの酷暑のなか、『青パト』で可児市内を巡回していました。すると歩道で立ちすくんでいる低学年児童の姿が目に入りました。どうも様子がおかしい。どうやら、あまりの暑さに体調を崩し、歩けなくなってしまっているようです。

すぐに日陰へ連れていき休ませようとすると、背後から「何かお手伝い出来ることはありますか?」との声が。振り向くと二十歳前後の青年がいました。青年は続けて、「良かったら、これを」とペットボトルの飲料水まで差し出してくれたのです。児童のことが気になりながらも、この青年にも気を取られてしまいました。いたく感心したからです。

青年は、児童が無事、家族に引き取られるまで付き添ってくれました。聞けば、名古屋からこちらの企業に入り、一人暮らしをしているとのこと。その日は夜勤明けで、買い物帰りに私たちを見かけたそうです。まだ慣れない土地で、通りがかりのとっさの人助け。果たして自分にできるだろうか、と自問しました。少なくとも自信を持って「できる」とは答えられません。

これを彼の勤務先に報告しようと名前を尋ねると、下の名前が中日ドラゴンズの元エース投手と同じではありませんか。親御さんが、その選手にちなんで付けられたそうです。

青年は決して名前負けしていませんでした。その彼に、この場をお借りして改めてお礼を言わせてください。その節は本当にありがとう、憲伸くん!

☆ 「高校(仕事)をやめた。どうしていいか分からない」

「問題行動を起こした」「子どもが非行に走った」等。

☆その悩み、本当はあなたのせいではないかも知れない。

～ひとりで悩まず、相談してみてください～

《可児市少年センター 相談窓口》

TEL 62-1111 (内線2116) 受付: 平日 9:00~16:00

メール: seisyonensoudan@city.kani.lg.jp

※保護者の方からのご相談も承ります。遠慮なくお電話ください。

秘密は厳守します。相談は無料です。

〒509-0292 可児市広見1-1 可児市役所地域協働課内 可児市少年センター

